

山行報告書

作成：2008年9月16日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	八雲ヶ原 [比良山]	目的[方法]	中高年安全登山指導者講習会
期間	2008年9月12日(金)～14日(日)	形態	日帰りハイキング(ホテル泊)
参加人数	2人(受講者総数:41人)		

行動記録:

9/12(金) 岡崎IC(825) =1:00= 養老SA(925,945) =0:05= 関ヶ原IC[通割¥1,350](950) =1:50= 京蕎麦「志乃崎」(1140,1220) =0:20= ホテル琵琶湖プラザ(1240)TS1 就寝(22:30)

9/13(土) 小雨のち曇り時々晴れ, 21 起床(5:00) TS1(735) =0:50[貸切バス]= ガリバー旅行村(825,910) -0:45- 八瀬の滝(955,1010) -1:55- 八雲ヶ原(1205,1345) -0:20- 北比良峠(1405,1415) -1:25- ダケ道分岐(1540,1545) -0:25- イン谷登山口(1610,1640) =0:25[貸切バス]= 琵琶湖プラザ(1705)TS2 就寝(23:55)

9/14(日) TS2(1255) =0:50= 栗東IC(1345) =1:20= 守山PA(1505,1525) =0:30= 岡崎IC[¥4,000](1555)

概念図:



日誌:

貸切バスでガリバー旅行村へ移動する。まだ小雨が残るので、雨具など身支度する。全員で準備運動を念入りに行う。

5分間隔で1班から順次出発する。先頭は班長(主催県のリーダー)、後尾にスタッフ(主催県の関係者)4～5人が付き、その間に受講者10人が順不同に入る。

受講者には前日、山行資料(ルート記載の地図、滝部の詳細図)が配布されている。滝部は遊歩道が整備されているが、上下2箇所滝道(遡行)コースが併設されていて下部は遊歩道、上部は滝道に行く。雨上がりの岩は滑り易いので用心する。

5分間隔で出発したものの、鎖場、渡渉、梯子など悪場が連続するので、都度順番待ち渋滞が発生する。危険箇所の通過では、リーダーの指示に従って行動する。ただ隊列の後尾までは指示が届かないことがあった。また、リーダーが後続の通過までフォローするため、先頭の受講者がリーダーより先に次の危険箇所に取り付く場面があった。スタッフを受講者の間に配置し目が行き届くようにした方が良かったのではと思う。

貴船の滝から上は危険箇所無く、読図しながら歩く。沢の分岐角度、川原の広さなどが現在地同定のポイントとなる。

尾根に取り付き高度を稼いでいく。樹林の中で展望はスッキリしないが、進行方向、周囲の尾根との高度差、特徴あるピークなどで現在地を確認する。「まぼろしの滝」標識を過ぎると次第に尾根は緩やかとなり、やがて開けたところに出る。かつては比良山スキー場として賑わった八雲ヶ原に到着する。豪華な2段重ねの豪華な弁当を急いで食べる。

食後休憩も惜しんで講習が始まる。負傷者搬送法として、“さらしを使ったおんぶ紐方式”が紹介された。さらし以外は不要なので手順は簡単明瞭で担ぎ手交代も迅速に行える。次いで、ヘリによる負傷者救出訓練(ヘリ誘導、収容)の予定であったが、途中で転倒し左手を負傷した(骨折の疑いあり)受講者がいたので、主催者協議の結果「片手不自由での下山は危険」との判断により、“本番”となり大津市民病院に搬送された。

北比良峠で記念写真を撮り、ダケ道を下降してイン谷口に下山した。ここで最後の実技講習「渡渉時のザイルワーク」を受ける。シュリングを使った簡易ハーネスの作り方、ザイルを川に対して斜めに張り上流側から下流側に渡ることなどの説明を受けた。登りの渋滞が祟り、予定より1時間遅れで実技講習を終了した。

感想:

講習科目は例年変わらないが、“さらしによる搬送”、“GPS利用による道迷い防止”など新たな方法を知ることができた。山では持ち物を活用・工夫することが基本だが、何を携行すべきか再考する機会となった。